

**学際的ワークショップ 『精神分析の知のリンクにむけて』**  
**第九回「意識、無意識、AI」**

精神分析が問題にするのは「意識」ではなく、「無意識」である。フロイト的な意味での「無意識」とは意識のない状態ではない。それは抑圧された心的領域である。フロイトは神経科学者として研究を始め、初期は意識を知覚系の機能と想定し、心的装置の辺縁に位置づけた。しかし、精神分析家として「無意識的なもの」に関心を向けるようになってからは、意識への関心は退いていく。この傾向はフロイト以降の精神分析においていっそう顕著である。この趨勢に変化が生じたのは、今世紀に入って、神経科学と精神分析との対話を試みたニューロサイコアナリシスという学が出現することによってである。その創始者であるソームズは、意識のクオリアは脳幹の中核部から発生し、そのメカニズムは物理法則に従うゆえに工学的に作り出すことができると述べている。

ところで、この数年で飛躍的な発展を遂げた生成 AI は、これまでの AI ブームとは一線を画し、脳科学、哲学、言語学をはじめ人間諸科学の基盤を再考する格好の素材を提供している。私たちは、すでに AI と共存して生きる時代に入っている。AI 技術は、生物としての人間にとって、「外部」に位置するものであるが、人間が自らの「外部」を「代補」として利用することによって(言語はそもそも人間にとっての「外部」であったが、長い進化の過程で「内部」の装置となった)、これまでの思考のあり方や生の様式を別様に変える可能性さえ持っている。

今回のメイン・シンポジストの渡辺正峰氏は、日本で最もラディカルな脳科学者であり、意識研究のエキスパートである。人間の意識を機械にアップロードするという大胆な実装研究を提示した『脳の意識 機械の意識』は大きな話題を呼んだ。精神分析側のシンポジストとしては、ニューロサイコアナリシスを牽引する精神科医で、言語学的な観点から精神疾患にアプローチしている久保田泰考氏、精神分析家でありつつも、並行して脳内免疫細胞ミクログリアの生物学研究も行っている加藤隆弘氏をお招きする。指定討論は、解離研究の第一人者であり脳科学にも造詣が深い岡野憲一郎氏に担当してもらう。

AI 研究と脳科学研究の転換期に、精神分析の基本概念である「意識と無意識」を改めて問い直すことが、今回のワークショップの目的である。

日 時：10 月 14 日（月、祭日）13：00～17：00

場 所：小寺財団第一セミナールーム

方 法：ハイブリッド形式

参加対象：どなたでも参加できます。

発表者：渡辺正峰（東京大学大学院工学研究科）

：久保田泰考（滋賀大学保健管理センター）

：加藤隆弘（九州大学大学院精神病態医学）

討論者：岡野憲一郎（本郷の森診療所/京都大学）

司 会：藤山直樹、十川幸司（個人開業）

参 加 費：4000 円

定 員：100 名（会場 30 名まで）

**主催 小寺記念精神分析研究財団**

## 学際的ワークショップ

### 参加申込書

- ◆ 参加申込書は、Eメール、FAX または郵便にてお送りください。
- ◆ Eメールの場合は、件名「学際的ワークショップ」として、記入済みの申込書データを添付していただくか、下記の項目を本文にすべて記入しお送りください。

Eメール：kodera.kt@nifty.com FAX：03-3350-9749

郵送：〒160-0004 東京都新宿区四谷 3-4 SCビル 6階 小寺記念精神分析研究財団事務局

※記載いただいた個人情報は、小寺財団の主催するセミナーのご連絡・ご案内のみに使用いたします。

申込締切 10月7日（月）必着

申込日 月 日

1. 氏名、生年	フリガナ  氏名	西暦  年生まれ
2. 主な勤務先 あるいは所属		
3. 連絡先	住所 〒	電話番号
	Eメールアドレス（Zoom参加の場合、Zoom招待を受け取るEメールアドレス） -----	
4. 参加方法	(いずれかに○)  会場 ・ Zoom	
5. 認知媒体	本セミナーをどのようにして知りましたか？（あてはまるものに○） ホームページ・メール・SNS・知人の紹介・その他（ ）	

参加費：4,000円

- ◆ 参加の可否については、受付後、順次メールにてお知らせいたします。定員になりしだい締め切ります。参加費振込先はその際にご案内し、お振込を確認後、名簿にお名前を記載いたします。